

全国一斉に「**全国安全週間**」が取組まれます。（期間：7月1日～7日 準備期間：6月）

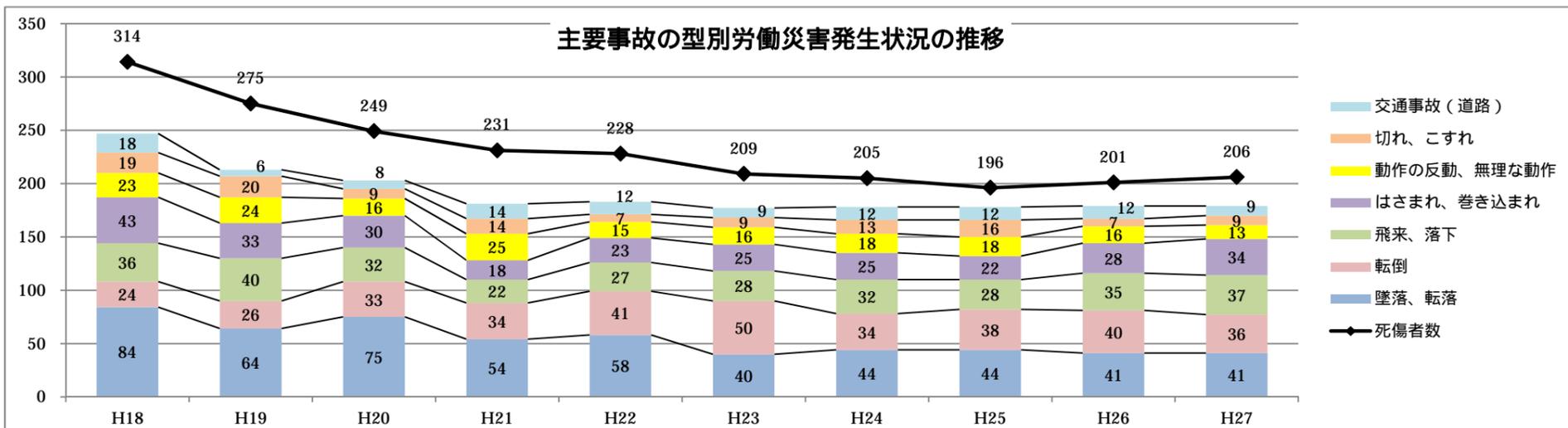
当署管内では労働災害が増加しています。**安全・安心な職場作り**に積極的に取組みましょう。

今治労働基準監督署

全国で平成 27 年に 4 日以上休業した死傷者数は、前年比 2.7%減の 116,311 人となりました。また、死亡者数は前年比 8.0%減の 972 人で、初めて千人を下回りました。

愛媛県下及び今治労働基準監督署（以下「当署」という。）管内における平成 27 年の労働災害発生件数は「第 1 号」でお知らせしたところですが、当署管内の労働災害は 2 年連続で増加している状況にあります。

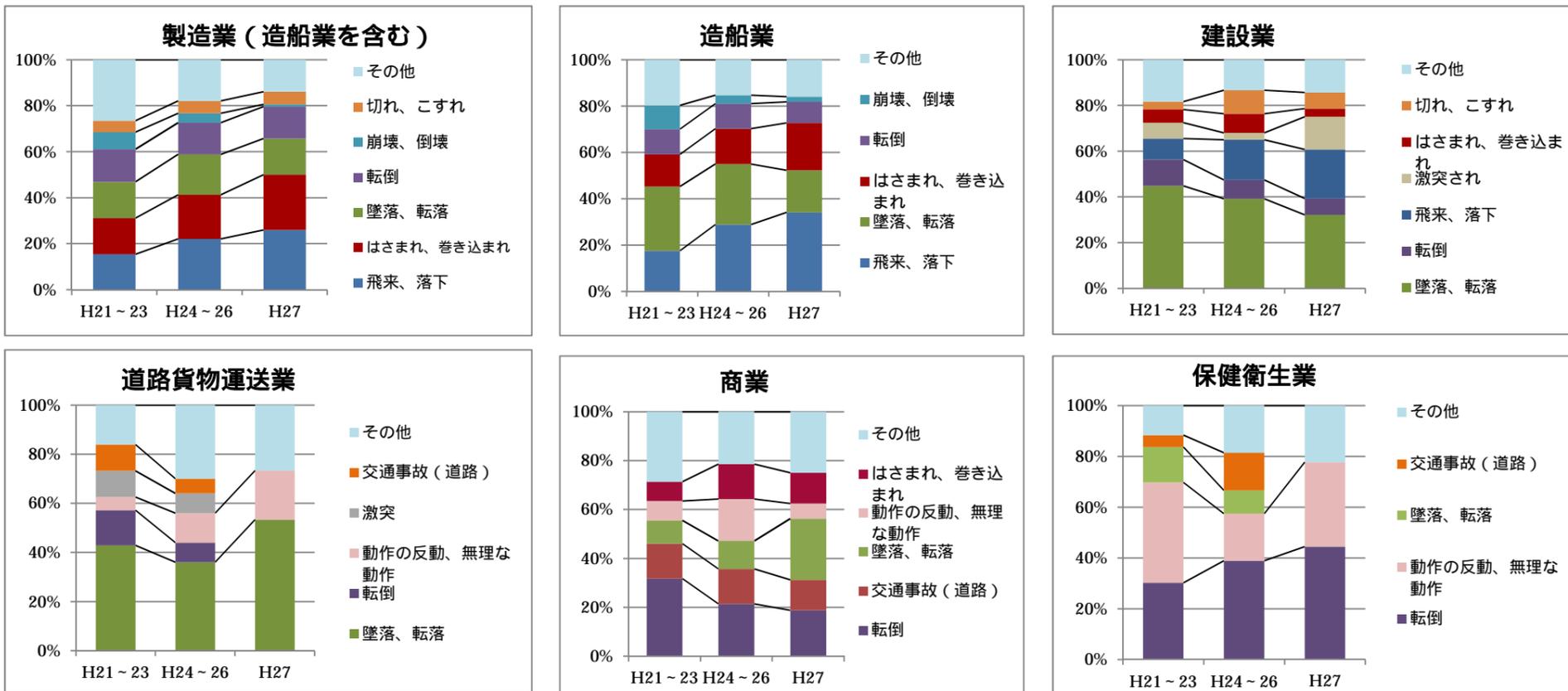
今号では、当署管内で発生した休業 4 日以上労働災害を「事故の型」（事故を現象で 21 種類に分類したもの）に注目して分析しました。下図は、年毎に主要な「事故の型」別の死傷者数を積み上げて棒グラフで示し、年毎の死傷者数を折線グラフで示したものです。



当署管内で最も多いのは「墜落、転落」災害ですが、平成 24 年以降は、ほぼ横ばい状況です。また、近年「飛来、落下」災害、「はさまれ、巻き込まれ」災害は増加傾向となっています。

平成 27 年の全国での事故の型別発生割合を見ると、「転倒」が最も多く全体の 22%（当署 17%）を占め、次いで「墜落、転落」が 17%（当署 20%）、「はさまれ、巻き込まれ」が 13%（当署 17%）を占めています。当署で多い「飛来、落下」は 6%（当署 17%）です。全国、県下では「転倒」災害の占める割合が高くなる状況ですが、当署では「転倒」災害は一定比率はあるものの、従前から多い「墜落、転落」、「はさまれ、巻き込まれ」、「飛来、落下」が減少せず、増加しているのが特徴です。

下図は、当署管内の主要業種毎の主な事故の型別の推移を示したものです。平成 21～23 年及び平成 24～26 年の 3 年毎の合計と平成 27 年を示しています。



製造業では「飛来、落下」、「はさまれ、巻き込まれ」災害が多く比率が高い。また、保健衛生業では「転倒」災害が多い等、業種毎に特徴が有り、増減の傾向も分かるのではないかと思います。なお、「動作の反動、無理な動作」の件数は、災害性腰痛（ギックリ腰）の件数です。

平成 28 年 5 月末現在の当署管内の休業 4 日以上労働災害は、前年同期比で **12.3%増加**しています（下表参照）。

3 年連続の増加とならないためにも、「**全国安全週間**」の取組を積極的に推進して下さい。

平成 28 年労働災害発生状況（前年平成 28 年 5 月末現在 主要業種 対前年同期増減）

業種	H28(1～5月)	増減数(前年比)
全産業	73	+8 (+12.3%)
製造業	35	+2 (+6.1%)
食料品製造業	3	-3 (-50%)
金属製品製造業	8	+3 (+60%)
造船業	15	+5 (+50%)
建設業	10	-2 (-16.7%)
道路貨物運送業	10	+7 (+234%)
商業	8	+4 (+100%)
保健衛生業	4	+2 (+100%)
接客娯楽業	1	-3 (-75%)

見えますか？あなたのまわりの見えない危険

みんなで見つける 安全管理

第 89 回 全国安全週間 スローガン  
（期間 7/1～7 準備期間 6月）